面会制限で面会できない家族に対する取り組み

～利用者と家族の思いに寄り添って～

介護医療院なでしこ境港　Aチーム
◎巽　〇山本久　吉川　田原
椿　　柏木　　崎田

はじめに

- 介護医療院：医療の必要な要介護者の長期療養、生活施設
- 当院は令和元年9月に介護療養型保健施設より転換

- 介護医療院なでしこ境港の役割
  - ・生活の場としての機能
  - ・ターミナルケアや看取りの対応

家族には午前中から面会できるようにし来所しやすい環境を作り

利用者が「自宅で過ごす」ような時間を作っていた

しかし、コロナウイルス感染拡大予防のため面会制限となり

「面会制限で利用者と家族が会えない」

家族からは…

・元気にすごしていますか

・いつ会えるようになるんだろう　等

「不安な声」が聴かれるようになった

そして

終末期の利用者家族も面会制限により会う機会が少なくなり

利用者の様子を見ることができない状況となった

チーム目標

- １．家族へ利用者の様子がわかる情報提供をする
- ２．看取り介護の体制を構築する
  （Aチーム、Bチーム共通目標）

方法

- 期間：令和2年4月から現在に至る
- 対象：介護医療院なでしこ境港利用者家族

具体策

- 目標1に対し
  - １）チーム目標の決定
  - ２）タイムスケジュールの決定
  - ３）手紙作成の役割決定
  - ４）前期活動結果の振り返り
- 目標２に対し
  - １）終末期利用者家族の意向を聞きながら対応する
  - ２）定期的、また必要時カンファレンスを計画、実施

結果

目標１

月	内容
4月・5月	チーム目標及び活動内容・役割（レイアウト・作成手順・定型文）決定 ・手紙は毎月作成（誕生会の後は特に） ・役割は個人の得意分野を活かせれるよう振り分け
6月・7月	各担当の進捗状況の確認
8月	9月に発送予定の手紙第1号を作成
9月	手紙第1号発送
10月	前期振り返り

結果

目標１

月	内容
11月・12月	チーム会開催 ・手紙作成手順の可視化を作成するため、ファイル内容の具体策を決め各担当に作成依頼 ・手紙発送の回数の見直し
1月	各担当利用者家族へ発送する手紙第2号作成を依頼
2月	手紙第2号の完成
3月	手紙第2号発送予定

新型コロナウイルス感染拡大防止による
面会制限にご協力頂き誠にありがとうございます。

介護医療院では感染拡大防止に向け職員も日頃の体調管理、消毒、マスクの着用等の徹底を行っております。
この度、「仕事などであまり介護医療院に足を運べない」「面会制限で会えない」等、御家族様に対し日頃の利用者様の表情や様子が少しでも届くよう「おたより」を作成することにいたしました。
尚、リモートによる面会を始めましたので別紙をご参照ください。

様のご家族様
5月　鯉のぼりと共に写真撮影
6月　父の日　母の日のお祝い
7月　七夕会の行事に居室にて参加されました。

毎月の行事では色々な表情をみせてくださり職員も楽しい時間を過ごさせてもらっています。

〔日々の様子〕
点滴加療後、肝機能等が改善され、痒みも少し減ったようです。
職員の顔を見ると　さまから挨拶をしていただき、お礼の言葉をいってくださいます。
私たちは、　様の大きな声と笑顔に元気をもらっています。。

〒684-8555
鳥取県境港市米川町44
鳥取県済生会境港総合病院
介護医療院　なでしこ境港

手紙１回目

目標２

- 介護医療院で看取りを希望された方：多い月で15名
- 終末期で介護医療院に入所、死亡された方：2名
- 会えないことから聞かれた家族の言葉

「5か月も会えなかった」「最期何もしてやれない」

「一度も顔を見てやれなかった」

「このまま逝かれるのはダメ、できる限りのことをしてほしい」

⇒入所時、看取りを希望されていたが、急遽病院受診し入院、その後 死亡退院される

目標２

- 看取りを希望されたが面会制限となり利用者と会う機会が少なくなった家族への働きかけ
  - ・状態変化を認めたら、その都度連絡し状態説明
  - ・医療院で可能な限りの処置、苦痛をとる方法でケアを行う
  - ・状況に合わせ家族の意向確認とカンファレンスの施行

    限られた時間を大切にしたいスタッフの想い

  ⇒様態や感染状況、感染対策等、状況が変わるたびに対応について確認しながらターミナルケアを実施

考察

- 手紙発送に対し
  「入所中の様子がよく分かった」
  「行事をおこなってくれて本人も喜んでいると思う」と安堵した声

面会できない環境下で
会えない不安に「添い」
写真付きで様子をお知らせする情報提供で「安心をもたらす」ことができた

考察

- 看取りに対し

長期に面会できないことによる苦痛と哀しみは、想像以上のものだった

家族の想いをスタッフで共有し、限られた時間で可能な限り面会できるよう配慮

チームをこえ多職種との、連携、協力によって穏やかに過ごせる時間を作れた
亡くなられた後も、振り返ることで今後のケアに役立つものになった

看取り利用者の状況に合わせカンファレンスで情報共有し
「調整する」「問題に即応する」ことは家族の安心を保つうえで必要なスキル

結論

- １．手紙を作成し利用者家族に情報提供する事により
  面会出来ない家族へ安心してもらう事ができた
- ２．手紙の有効性が分かったので、今後も定期的に発送する
- ３．手紙発送の手順化を振り返り、来年度につなげる
- ４．医療院での看取り介護を希望される利用者の状況に合わせ
  家族の意向確認やカンファレンス開催による情報共有は
  家族の安心につなげる方法として今後も重要である

父親のように育ててくれた　おじいさん
１年会えんかったな…

掲載した写真は、ご家族より許可を得て掲載しております。